



春、小ぶりの花を咲かせるサクランソウ

- 挨拶 ～再び赴任して思うこと～
- 知識の泉(森の話/木の話)～ユリノキのお話～
- 究める／広める／育てる(業務最前線)
- 自然彩々(センターの四季/生き物たち紹介)
- 楽／学広場(イベント・研修会)
- 職員面々(新たに配属された職員の紹介)
- 各種相談窓口の紹介



## 再び赴任して思うこと

林業技術総合センター農林水産部技術参事兼所長 佐藤 行弘

あの未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生し、県内全域が混沌としている最中の4月に当センターを離れて4年、今回再度の赴任地となりました。震災による建物等への被害は、本館が数ヶ月前に耐震改修工事が終わっていた御陰もあり特段の被害は無く、それぞれの実験棟も甚大な被害が無かったことが幸いでした。あれからすでに4年、いや4年しかまだ経っていないと捕らえるかは、個人個人この4年間辿ってきた軌跡によって違いはあると思うものの、当時在職していた所にいると、あの時の事がまざまざと蘇る感じがいたします。当センターは単独公所であり、都市部からも離れている上に、水道やガスなどの燃料も幸いにして確保できました。電気もガソリンを節約しながら自家発電機で最低限確保できたため、他の公所と比べれば、大変恵まれた環境にあったことは事実でした。

しかし、電話は通じず、情報がほとんど入らない状態が続く中、大衡村役場の防災無線を借用した県庁との定時連絡のみが唯一の情報ツールでした。毎日、わずかな時間つけられたテレビからの情報からは、まったく想像だにできない惨状が繰り返し映し出されていました。これを見た職員からは、公所として県の職員として、何らかの支援をしなければならぬのでは無いかとの声が、日に日に強くなりましたが、情報網がほぼ断絶している状態で、正直何をどうすればいいのかもわからず、日に日に憔悴感が増していた感があったことは事実でした。

私自身、震災に対しての対応如何を検討する余裕も無く、震災直後の混乱の真っ最中にセンターを離れることになりましたが、当時の所長をはじめ各部の部長が中心に研究職員一丸となって、震災被害に対していち早く研究機関としての役割を遂行されてきた御陰で、津波による防災林被害の実態解明とその対応、さらには今後本格化する防災林造成に必要なマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ苗木の膨大な需要量に対しての供給体制を整える一定の見通しを立てることが出来ました。一方、当初はまったく考えも及ばなかった東京電力第一原子力発電所の事故による放射性物質の拡散は、露地栽培しいたけの出荷制限にはじまり、タケノコ、山菜、野生茸類などの多くの特用林産物に広がり、生産者に大きな絶望感を与えてしまいました。現在、関係者の大変な努力によって、しいたけ栽培やタケノコの一部出荷制限がなされましたが、放射性物質が将来にわたって我が県の森林・林業・木材産業に及ぼす影響は全く未知数であり、当センターとして今後とも関与し続けなければならない重大な研究課題であると考えています。

ところで今年は県震災復興計画の再生期の2年目になる年で、おおむね10年間の復興計画の折り返し点でもあります。今年度当初、知事からは「『儲かる農林水産業』に向けてチャレンジしてもらいたい」との指示がありましたが、元気を無くしつつある森林所有者や林業関係者、及び関係業界団体に対し、平成30年から始まる震災復興計画の発展期の目標に掲げている、まさに「森林・林業・木材産業の発展」に向け、公設試験研究機関である林業技術総合センターとしての役割をしっかりと繋いでいきたいと思っております。





## 知識の泉(森の話/木の話)

森林や木材に関するとおきの知識をわかりやすく  
ご紹介します。

### ◎ ユリノキ (ハンテンボク) のお話し

ユリノキ *Liriodendron tulipifera* は、明治初期に日本に渡来した北アメリカ原産のモクレン科の高木で、街路樹として各地に植えられています。まっすぐ伸びた幹に、5月にはたくさんの葉をつけた新緑の季節を迎え、遠くから見てもすがすがしい感じがします。当センターの構内にも、25mを超すユリノキの大木があります(写真-1)。

5月から6月頃に、枝先に直径6cmくらいのお椀形の花を咲かせますが、全体が黄緑色で目立ちません。花の下部が淡いオレンジ色をしているので、その色を探すとたくさんの花を着けているのに驚かされます。

#### <なまえ>

和名の「ユリノキ」は、学名の直訳です。学名は、属名と種小名の組み合わせで名付けられますが、属名 *Liriodendron* の *Lirio* は「ユリ」、*dendron* は「樹木」を意味するので、そのままユリノキ(百合の樹)という和名になりました。種小名の *tulipifera* は「チューリップ形の花の咲く」という意味で、英名のチューリップツリーと同じ意味です。実際、お椀形の花はチューリップの花に似た形をしていて、3枚の萼(がく)と6枚の花びらがあります。また、葉っぱの形が袴纏(はんてん)をつるしたときの形にそっくり(写真-2)であることから、日本ではハンテンボクという別名がつけました。この葉の形は、ほかの樹木にはない特徴的な形で、しかも葉っぱだけ(落ち葉など)でも判別がつくため、こちらの名前で覚えている方も多いと思います。

#### <蜂蜜>

ユリノキの花は多くの蜜を出すため、アメリカでは蜂蜜の蜜源として一般的だそうですが、日本ではほとんどが街路樹であるため難しいのかと思っていました。しかし、東京などの大都会で、ビルの屋上養蜂によってユリノキの蜂蜜が生産されているようです。蜜源として有名なレンゲやニセアカシアなどのマメ科植物の蜜と違い、モクレン科のユリノキの蜂蜜は、さらりとしてクセがなく上品な蜂蜜だそうです。

当センター内のユリノキの花に、その蜜を求めてコガネムシの仲間のハナムグリが集まっています(写真-3)。花の萼片の上にしたたり落ちるほどの蜜が出るので、甘いもの好きの虫たちにはたまりませんね。コガネムシといえば、アメリカの作家エドガー・アラン・ポーの「黄金虫」という短編小説の中に、巨大なチューリップツリー(ユリノキ)によじ登り、コガネムシを使って宝探しのヒントを得るシーンがあります。

#### <街路樹>

仙台市内のあちこちで、街路樹として植えられたユリノキを見ることができます。青葉区川内にある宮城県美術館前の通りや、北目町通(S S 30と河北新報社で挟まれた通り)には、15mクラスの大木となったユリノキが並んでいますので、花の咲く時期を見計らって街へ出て、控えめで可愛らしい花を鑑賞してみてください。

【環境資源部 菅野 昭】



写真-1 ユリノキの大木



写真-2 : ユリノキの花と葉



写真-3 : ハナムグリが集まったユリノキの花





センター業務の柱である試験研究や普及指導、人材育成（研修）業務の最前線をご紹介します。

## ◎ 海岸防災林造成盛土の診断結果 ～ その1～

海岸防災林の復旧に向け、盛土造成し植栽工事が行われています。海岸林の植栽に及ぼす様々な環境条件の影響が想定されます。その一部として、今回亘理町の盛土に使われた土壌特性の調査結果を紹介します。

### ○土壌養分

樹木が順調に生育するには、窒素、リン酸、カリの三要素が必要ですが、植物が利用可能なリン酸の指標は、「有効態リン酸」で表されます。また、窒素は、有機態と無機態に大別され、アンモニア態と硝酸態が無機態窒素になりますが、植物が利用できるのは「硝酸態窒素」で吸収後アミノ酸・蛋白質に合成されます。「アンモニア態窒素」は植物に吸収可能な硝酸態の1つ前の状態で、微生物等により硝化され「硝酸態窒素」に変換されます。亘理町の造成盛土においては、アンモニア態窒素、硝酸態窒素のいずれも、微量しか検出されず(図—1)、欠乏症を引き起こす恐れがあり、土壌の養分保肥力の目安とされる陽イオン交換容量「CEC」も低いと思われます。

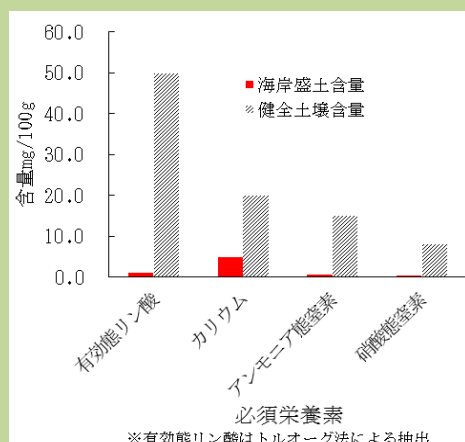
### ○土壌の酸性度

日本は降雨量が多く、アルカリ性ミネラルのカルシウムやマグネシウムが流れてしまい、土壌が酸性化しがちです。酸性やアルカリ性の度合いは、pH(ピーエイチまたはドイツ語読みでペーハー)で表します。一般的な畑作物を栽培する土壌の好適pHは5.5～6.5の範囲、つまりやや酸性に傾いています。海岸盛土を数箇所分析したところ5.9～6.15で、ほぼ好適値の範囲でした。これは土壌分析の結果(図—2)適量のカルシウムとマグネシウムが含まれており、土壌ミネラルが影響しているものと考えられます。

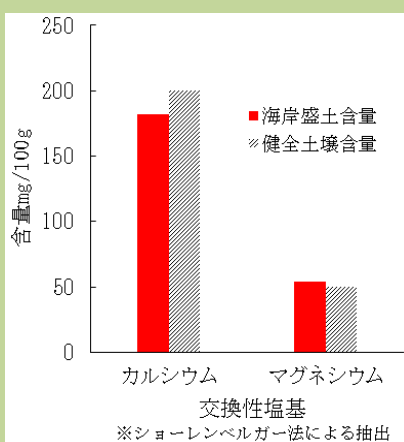
### ○土壌の物理的特性

以前NO.33号で報告した「三相組成」に引きつづき、「土壌ち密度」を紹介します。根の伸長と直接かかわりをもつ「土壌ち密度」は、土壌硬度計を用いて深さ90cmの範囲内にち密層が存在するかどうか調査する方法です。海岸盛土造成地の亘理町及び岩沼市と当センターの苗畑を比較(図—3)したところ、亘理町は密度が高く、土壌の透水性が劣り湿害の影響が懸念されます。この土壌は、水を含むと膨潤し、乾燥すると収縮する特徴があり、膨潤性粘土鉱物であると考えられます。

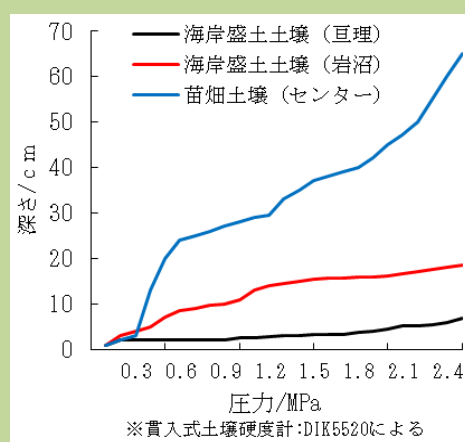
1)「CEC」 粘土や腐植の表面に養分などの陽イオンを保持できる量を表す。土の保肥力の大きさを示し、肥沃土でこの値が大きくなる。



図—1 必須栄養素の含量(亘理)



図—2 交換性塩基の含量



図—3 盛土土壌ち密度の結果

【環境資源部 伊藤俊一】

## ◎ 海岸林造成に向けた広葉樹の育苗技術に関する研究

東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けた海岸では、防潮堤再建や植栽基盤整備も進み本格的な海岸防災林の植栽時期を迎えています。海岸防災林の再生にはクロマツが最適で、海側は抵抗性クロマツ以外の植栽は厳しいと考えられますが、その内陸側には広葉樹を植栽する方針が国や県の検討会で示されています。一方、県内では広葉樹の生産実績が少ないため、効率的な育苗体制の整備が必要とされています。一般に、広葉樹は、裸苗かポット苗を用いて生産されますが、抱えている課題として、裸苗では苗畑の除草が多忙なこと、根切りが必要であること、植栽時の根の乾燥に細心の注意が必要なこと、ポット苗では直根に根巻きが発生するものが多いこと、根鉢が重いことなどがあげられます。一方、スギではマルチキャビティコンテナ（以下コンテナという）を用いた新たな育苗技術が開発され、根鉢の軽量化や空中根切りによる根巻きの抑制に効果を上げており、広葉樹苗生産にもその応用が期待されています。本研究では、コンテナを用いた育成実験を行うとともに、裸苗やポット苗の成長量と比較することで、樹種毎に適した育苗方法について検討しています。本研究の実施期間は平成25～27年度で、対象とした樹種は、「海岸防災林に適した植栽樹種に関する調査報告書」（宮城県森林整備課 2012）で植栽に適していると判断された数種の広葉樹としました。今回はその概要をご紹介します。

### ○発芽率を調査

樹種毎の発芽率を調査することで、コンテナ、ポットや苗畑に種子を播く量の目安を得ます（写真－1左）。

### ○成長量を調査

樹種毎の成長量を定期的に調査することで、施肥や病害虫防除のタイミングを検討するとともに、植栽可能な規格に達するまでの育苗期間を把握します（写真－1右）。

### ○根茎の状況を確認（写真－2）

樹種毎、育苗方法毎に根茎の発達状況を確認することで、植栽後の活着や成長を検討する際の基礎情報を得ます。



写真－1 発芽量調査（左）及び生育状況調査（右）



写真－2

ヤマザクラの根茎

コンテナ 300cc 苗(左)

ポット苗(中央)

裸苗(右)

### ○育苗管理方法の検討

育苗方法毎に種子の取扱（休眠打破の方法や乾燥を防ぎ発芽率を維持する方法等）、施肥の方法、病害虫防除の方法、育苗期間、得苗率等について整理し、樹種毎に最適な育苗管理方法を検討します。

### ○成果の活用

本研究の成果は宮城県の苗木生産者に普及します。また、得られた苗木（コンテナ苗、ポット苗、裸苗）を用いて、植栽試験を中心とした課題を平成28年度から実施する方向で検討しています。平成27年4月には亘理町の試験地でプレ植栽を実施しました（写真－3）。



写真－3 植栽試験に用いた苗木（左）及び植栽状況（右）

## ◎ 平成27年度林業試験研究のあらまし

### ○ はじめに

平成26年12月に、本県の林業試験研究が目指す方向性を明確にし、実効性のある試験研究の推進を図るため「宮城県林業試験研究推進構想」を見直しました。構想は、森林・林業・木材産業を取り巻く諸情勢の変化に呼応した諸課題を整理して、今後取り組む試験研究の目標などを明示したものです。

本年度からは、この新しい構想に基づき試験研究を進めますが、森林や林産物の放射能物質対策及び海岸防災林の再生対策など、「みやぎ森林・林業の震災復興プラン」の推進を加速させる試験研究に優先的かつ重点的に取り組むほか、スギ花粉症対策などの社会的ニーズに対応した研究についても積極的に推進してまいります。

### ○ 主要目標と主な研究課題

#### 【活力ある林業県宮城を推進する技術開発】

- 1 原木しいたけ生産再開に向けた生産実証試験と原木林及びほだ場の汚染状況・生産物への放射性物質移行に関する基礎調査  
放射能汚染被害を被っている原木しいたけ生産において、ほだ場の環境や子実体への放射性物質の移行などについて調査し、生産再開に向けた基礎的データを収集します。
- 2 木材への放射性物質の影響に関する調査  
森林内のスギ立木における、葉や樹皮、木部への放射性物質の蓄積及び移行状況などを明らかにします。
- 3 コンテナ苗等を活用した再造林コストの低減に関する研究  
造林未済地の解消に向け、スギコンテナ苗による植栽技術の現地適応化技術及び初期保育に関する低コスト技術などを検証します。
- 4 効果的なニホンジカ保護管理の推進を目的とした生息状況調査と森林影響度調査  
生息分布や密度、森林の下層植生などを調査して、森林環境への影響が懸念されるニホンジカの生息実態を明らかにします。

#### 【美しい森林づくりを推進する技術開発】

- 1 クロマツ苗の無性繁殖による大量増殖技術の開発  
震災により被災した海岸防災林の再生に必要な、松くい虫抵抗性クロマツ苗木を大量供給するため、マツ類では困難とされてきた「さし木」による大量生産技術などを確立します。
- 2 雄性不稔（無花粉）スギの品種開発に関する研究  
国立研究開発法人森林総合研究所が選抜した無花粉スギ品種「爽春」との人工交配を進め、本県の精英樹由来の無花粉スギ品種を開発します。
- 3 スギの第二世代精英樹（エリートツリー）開発に関する研究  
林業再生に必要な育林コストの低減を図るため、これまでに選抜された精英樹から格別に成長などの優れるスギの第二世代精英樹の候補木を選抜し、その特性を調査します。

【企画管理部 清川雄司】





# 自然彩々

地域のオアシスでもあるセンターの四季折々の自然や、センター内に生息している野生生物たちをご紹介します。

## ◎ まるで白い塔ーバイケイソウ（梅蕙草）

春の雪解けも過ぎた4月になると、センター内の沢にはバイケイソウ(学名:*Veratrum album* subsp. *oxysepalum*)が黄緑の葉を真っ先に出します。その後、茎を伸ばし6月初めからその上に円錐花序となる緑白色の花で2cm程の花を多数咲かせます。高さは0.6m~1.5mになります。その姿は、まるで多数の白い塔が緑の海から天に向かって伸びる様です(写真-1)。葉は広楕円形~長楕円形で長さは20~30cm,幅は20cm内外で互生し基部は茎を抱きます。花は6枚の花被片から成り、倒卵形~長楕円形で基部は緑色、残りは多数の緑の線のある白色、縁には突起毛があります。裏側にも白毛が密生しており、雪が付いているようにも見えます。6個の雄しべは短く、子房には毛があり、3つの花柱は反り返っています(写真-2・3)。

和名は花が梅を思わせ、葉が蕙蘭(ケイラン)に似ていることによるものです。

芽生えの姿は山菜のオオバギボウシ(ウルイ)に似ており誤って食べられることがあります。ジュエルビン、ベラトリン、プロトベラトリンなどのアルカロイドが含まれているため、吐き気、手足のしびれ、呼吸困難など中毒症状を起こします。(これらの毒は、熱を加えても分解されません。)根茎は、かつて血管拡張作用があるため血圧降下剤として利用されていましたが、現在は使われていません。また、東雲草(しのめそう)の名で、殺虫剤としても使われていました。

近縁種のコバイケイソウはやや高い山地に生えますが、高さは1mほどと低く、花序は厚く密な感じに付いていて、バイケイソウと同様の毒性を持つので注意する必要があります。

【環境資源部 梅田久男】

### 参考文献

山に咲く花 山と溪谷社 2003

日本の野生植物 草本I 平凡社 1991



写真-1 林立するバイケイソウ



写真-2 バイケイソウの花



写真-3 小花

## ◎ サクラの花を落としたのは誰？

新緑がまぶしい季節になりました。少し前の話になりますが、ソメイヨシノのお花見はいかがだったでしょうか？当センターの向かいにある大衡中学校隣の公園では綺麗に開花し、メジロやヒヨドリなどの鳥たちもサクラの木を訪れていました。

### 〈誰の仕業？〉

そんな満開のサクラの木の下をみると、花がポロポロと落ちていることがあります。花びらではなく、花が丸ごと落ちていて、よく見ると、萼筒の部分が切られています(写真-1)。

これは鳥の仕業で、スズメが行う「盗蜜」と呼ばれる行動の痕です。桜の花の子房部分には蜜が溜まっていて、メジロやヒヨドリなどの細い嘴を持つ鳥たちは花の前面から顔を入れて蜜を食べます(写真-2)。メジロやヒヨドリは舌の先がブラシ状になっていて、効率良く蜜を舐めとることができます。その際、顔に花粉が付き、次の花の蜜を食べようとしたときに受粉できる仕組みがあり、メジロとツバキ、サザンカなどでは相利共生の関係が成り立っているとされています。しかし、スズメの嘴は太く短いので、花の前面からは蜜に届かず、萼筒部分を嘴で摘み取って蜜を食べ、食べ終わると下にポイっと落としてしまいます。観察していると、嘴で摘み取ってから一瞬で下に捨ててしまうので、その行動がまるで花を落とすいたずらをしているように見えます。

### 〈スズメだけの行動なのか？〉

「盗蜜」行動の多くはスズメであるようですが、イカルも桜の子房部分を食べて花を落とすという報告があります。また、シジュウカラも盗蜜を行います。萼筒の基部や花柄から落とし、萼筒に穴を開けて蜜を食べるため痕が異なるそうです。スズメも桜も人里近くに多く、お花見の時に盗蜜の痕を見つけることが多いため、スズメの仕業だと有名になっていると考えられます。これら報告のある鳥以外や、桜の品種による盗蜜の有無などは明らかになっていません。

### 〈スズメの盗蜜は被害になるか？〉

せっかく桜が咲いたのに摘み取ってしまうなんて…、と思われる方もおられると思います。時には桜の木の下にたくさんの花が落ちていることもあります。ウソが冬の間花芽を食べてしまってお花見が寂しくなる(メッサみやぎ NO. 28)ような激しい「盗蜜」は起こらないようです。

ちょうど桜が咲く頃はスズメたちにとって忙しい子育ての時期です。花の蜜はスズメの主食にはなりませんが、ちょっとした栄養ドリンクなのかもしれません！

参考資料：三上 修，三上 かつら (2010) スズメのサクラへの害を定量化する方法. BrirdResearch, 東京

【環境資源部 佐々木智恵】

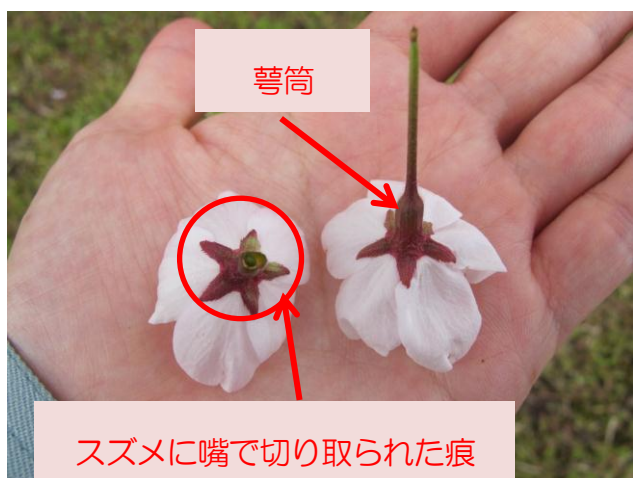


写真-1 盗蜜の痕

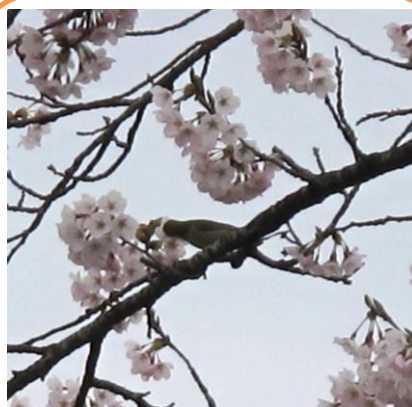


写真-2 桜の蜜を吸うメジロ





## 楽/学広場

センター主催の各種イベントや研修会の開催結果、今後の開催予定などを  
ご紹介します。

### ◎ 今年度開催予定のイベントについて

当センターでは県民の皆様へ森林・林業についてより身近に感じ、理解を深めていただけるよう、毎年関係団体等と連携しながら各種イベントを開催しております。

例年夏、秋にそれぞれ開催しておりますが、詳しい日時については、県政だよりや新聞・ラジオ等を通じてお知らせいたします。どちらのイベントも参加費はかかりません。是非お気軽にご参加下さい。

#### ◎ 夏の親子森林体験

夏休みが始まる7月末頃に、親子で参加できるイベントを開催します。本棚や踏み台などを作る、木工教室のほか、樹木の名前を覚える自然観察教室などを予定しています。夏休みの思い出や自由研究にぜひ利用してください。また、今年も参加者にカブトムシのプレゼントを予定しています。



協力して鋸引き！木工教室



完成した本棚



葉っぱの観察

#### ◎ 秋のセンター一般公開

実りの秋には、林業技術総合センターの施設一般公開を行います。日ごろの研究成果の紹介や、センターでの調査・研究を支えるハイテク（ローテク？）な実験機器がある、きのこ・木材加工実験棟もご覧いただけます。また、センター内樹木見本園には、たくさんの種類の樹木・植物が生育しているので、植物観察にや森林浴が楽しめます。そのほか、ネイチャークラフトも人気があるなど、お子様から大人の方まで楽しむこと請け合いです。



研究成果のパネル展示



ネイチャークラフトで小物作製中



さまざまなきのこの菌糸

【企画管理部 田邊 純】



## ◎ 技能講習修了証の再発行について

当センターでは、昭和56年から平成22年までの30年間、基幹林業技能作業士（グリーンマイスター）育成研修の一環として各種技能講習を行い多くの林業技術者を生産現場に送りだし教習機関としての役割を長年担ってきました。労働安全衛生法の改正等により平成26年3月31日で登録教習機関の役割を終え、現在、林業担い手の技能講習は、宮城県林業労働力確保支援センターが担っています。また、これまで行っていました修了証の再発行の手続きについては、下記の発行事務局に引き継ぐことになりましたので、修了証の再交付を希望される場合は、下記の事務局にお問い合わせいただくようお願いします。

### 【対象技能講習】

- 1) 小型移動式クレーン運転技能講習
- 2) 車両系建設機械（整地・運搬・積み込み及掘削用）運転技能講習
- 3) はい作業主任者技能講習
- 4) フォークリフト運転技能講習
- 5) 玉かけ技能講習
- 6) 地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習
- 7) 不整地運搬車運転技能講習



【交付年月日】 昭和57年5月28日～平成22年9月10日

【お問合せ先】 名称：技能講習修了証明書発行事務局

住所：〒108-0014 東京都港区芝5-35-2 安全衛生総合会館4階

TEL:03-3452-3371

FAX:03-3542-3349

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/gino/>

## ◎ 平成27年度人材育成研修のスケジュールについて

研修の名称		目的	対象者	定員	募集時期	研修予定	
センター主催研修	林業技能者育成研修	林業人材育成ステップアップ研修	提案型集約化施業の実践力を身につけた森林プランナーとなるためのステップアップ研修	トータルコーディネーター認定者等	7名	6月上旬	7月下旬～1月中旬 (5日間程度)
	林業後継者育成研修	林業教室	森林・林業に関する総合的な知識・技術の習得、地域の指導的人材を育成	林業後継者等	10名	4月下旬	5月中旬～10月上旬 (10日間)
		市町村林務担当職員研修	森林・林業に関する基礎知識を習得し森林・林業行政を円滑に推進する人材を育成	新規林務担当市町村職員	10名	6月上旬	6月中旬 (2日間)
		里山林の管理基礎講座	森林整備に関するボランティア活動を行うための基礎知識と技能の習得	一般県民	15名	9月上旬	10月上旬～11月下旬 (各4日)
依頼研修	林業就業希望者育成研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇林業就業・雇用講習</li> <li>◇林業就業支援講習</li> <li>◇緑の雇用「フォレストワーカー」育成研修</li> <li>◇森林作業道開設オペレーター育成研修</li> <li>◇林業技術講習会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業就業希望者、林業技術者</li> <li>・林業事業体現場技術者</li> <li>・林業研究グループ会員</li> </ul> ※宮城県林業労働力確保支援				

【普及指導チーム 名和優子】



## 職員面々 平成 27 年度からセンターに配属された職員を紹介します。

### 【地域支援部長 荒 昌樹】

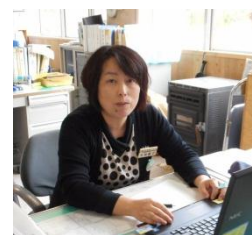
森林整備課から地域支援部に赴任しました。県職員 33 年目にして念願の職場勤務となり、早速センター内を歩いてみると、敷地の広大さと日々姿形を変化させる自然の豊かさに感動しております。また、林業技術の基盤を担っているセンターの役割や重要性についても改めて認識しているところです。

これからも、事業者や地域の皆様との連携を図り、当部が担当する木材及びきのこ等特用林産物の試験研究を進め、微力ではありますが、センターの役割を果たす事により、復旧・復興と林業・木材産業の発展に貢献できればと考えております。また、お気軽に相談等をお寄せいただければ幸いです。よろしくお願ひ致します。



### 【普及指導チーム 名和 優子】

初めての林業技術総合センター勤務です。主に林業技術の普及指導や後継者の育成、特用林産分野を担当します。センターでは海岸防災林の復旧に向けた育種をはじめ、復興に向けた木材の性能試験、きのこや山菜への放射性物質が及ぼす影響等の研究に取り組むほか、木質バイオマスや森林獣害に至るまでさまざまな研究が地道に続けられていることを改めて認識しました。こうした研究成果を森林所有者をはじめ、関係団体や県民の皆さんに広く普及できるよう研究員の皆さんと力を合わせ頑張りますので、よろしくお願ひします。



### 【普及指導チーム 佐々木 周一】

新緑を迎え、復興植樹の主催と支援、求職者への林業講座を終えました。県土が養い得る人口を物流の遮断された震災に垣間見、衣食住の自立に向け、1次産業の嗜好品化の是正と都市と地方交流の一翼を目指します。



### 【企画管理部 田邊 純】

4月より新任で配属となりました。場内のさまざまな植物を眺めつつ、新社会人を謳歌しています。と言いつつも、仕事面ではちんぷんかんぷんな毎日なので、早くセンターの一員として役立てるよう精進して参ります！



## 各種相談窓口の紹介

林業技術総合センターでは、森林・林業に関する様々なテーマについて試験研究するとともに、試験研究成果の普及、林業技術者の育成等の業務に取り組んでおります。その他、森林・林業に関わる各種相談も随時受け付けております。相談の際は、以下の窓口をご参照の上、林業技術総合センター（電話：022-345-2816）までご連絡下さい。一度代表につながりますので、相談内容（担当部署）をお知らせ下さい。

キーワード	詳細	担当部署	キーワード	詳細	担当部署
林業技術の普及	後継者の育成、試験研究成果の普及など	普及指導チーム	木材利用	木材の加工技術や委託試験など	地域支援部
森林・林業研修	林業教室、人材育成研修など		きのこ特用林産物	きのこの栽培技術、林産物への放射性物質の影響など	
育林技術 森林保護	育林技術、森林施業の改良など	環境資源部	育種・育苗	マツガ 他、チュウ抵抗性マツ、花粉が少ないスギ品種の開発	企画管理部
木質バイオマス	木質資源の有効活用など		林業種苗	林業種苗の生産	

### 宮城県林業技術総合センター

〒981-3602  
 黒川郡大衡村大衡字はぬ木 14  
 TEL022-345-2816 FAX022-345-5377  
<http://www.pref.miyagi.jp/stsc/>



メッサ(METSÄ)とは・・・  
 森をこよなく愛するフィンランド人の言葉で「森、木」を意味します。